

情報提示のための ICT 活用

「受動態の慣用表現を使った英語表現活動」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部1年
	障がい名等	聴覚障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	人工内耳、補聴器を装用し、主に音声、手話、口話でコミュニケーションを図っている。講座外での他生徒とは、音声と手話でやり取りをしている。話し手の声の高さ等によって、聞き取りの状況が左右されることや、英語の発音や内容の聞き取りなどに視覚情報を補助として用いることが必要である。生徒自身は音声を通してのコミュニケーションに積極的であり、正しい英語の発音やイントネーションの学習に意欲的である。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	コミュニケーション英語 I
	単元(題材)名	単元名「Artificial Intelligence 文法事項：受動態」
教材・教具支援機器について	単元(題材)の概要	(1) 教科書で学んだ受動態表現の意味・発音・用法などの特徴を確認する。 (2) 慣用表現を用いて、自分の経験や考えを英語で表現する。 (3) ALT による添削指導を受ける際に、自分の意図が反映されているか確認しながら、より実用的な英語の用法を学ぶ。
	教材・教具支援機器	(1) PowerPoint で慣用表現を提示する。 (2) 生徒が入力した慣用表現をモニターに投影し、ALT による添削指導を行う。(写真)
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語のアクセントやイントネーション等の音韻情報を視覚的な提示で確認し、意味を理解することができる。 提示された英文から、場面に応じた語彙や英語表現の意味について考え、適切に読解することができる。 適切な文法的な知識や語彙をもとに、英文を表現することができる。 <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語のスペルと音韻情報を関連付け発声しながら意味を理解できるように、アクセントやイントネーションがある文字の色を変えて提示する。 読解の際に、提示する英文の表示速度を調整したり、場面に応じて音声(聴覚情報)、字幕(視覚情報)、映像のみ(視覚情報)など、スライドを使い分けて提示する。 生徒の英語表現を TV モニターで確認し、視覚的に確認できるようにする。 生徒の表現をスクリーンによる提示や記憶媒体を使って振り返ることができるようにする。
	材料・作成方法等	使用したアプリケーションソフト：PowerPoint、Word
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> 英語の表記と音声との関連について画面を通して理解し、類似した語彙等について質問していた。 ALT との会話表現が成立することで生徒の英語学習に対するモチベーションが大きくなった。さらに、自分の作った英文をより自然な表現になるように添削指導を受け、英語表現に対してより積極的になった。 授業で取り入れた表現以外にも「・・・な場合は」英語でどのように表すか等、事後の学習にもつながった。